

生クビ切りへの突破口 帰休制度導入を許すな

臨調 行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

「過員」攻撃の手引者「動労」本部「革マル」を粉碎し、国鉄労働運動の強化かちどろう

「国鉄再建」を錦の御旗とする国鉄労働運動破壊攻撃は一段と激化しています。とりわけ「国鉄監査委員会」が、「過員」対策と称し、ついに「帰休（自宅待機）制度」導入の提言を決定したことは実に重大であり、全国の国鉄労働運動の戦闘的強化をもって絶対に粉碎せねばなりません。

5月2日 当局が「修正経営計画」を提出

「国鉄再建」にむけたこの間の主な動きを見ると、まず五月二日、国鉄当局は最終年度にあたる八五年度の「経営改善計画」（八一〜八五年度）を修正して細田運輸大臣に提出することを決めました。

「修正計画」の骨子は、① 三万人を削減し、三二万人体制とする。② 幹線のスピードアップ ③ 拠点間貨物輸送の徹底 ④ 赤字ローカル線廃止の促進、となっています。

たとえ計画を実施しても「赤字」幅は大きく拡大する―と当局自身が認めたりえで、しかし、ともかく「合理化」を強行すればいいというデータメな「計画」なのです。労働者のみを犠牲にするこんな反動的な「修正計画」など断じて認めることはできません。

5月7日 「監査委」が「帰休制度」を提言

次に五月七日、「国鉄監査委員会」は八月に公表される「五八年度国鉄監査報告」の重点監査項目を決めました。

すなわち、八三年度末で三万人の「過員」対策と称して、「帰休（自宅待機）制度」の導入によって過員を吸収し、さらに人員合理化計画を強力に推進するよう運輸大臣、国鉄総裁に提言するとうち出しています。さらに、「職場規律の確立」「設備投資の見直し、効率化」「縦割り組織の弊害を除くための大幅機構改革」等の方針を決定し、「今後三カ月をかけ各現場の実態調査を行う」としています。

そして五月八日、「国鉄再建監理委員会」は仁杉国鉄総裁を呼び、昨年八月の「緊急提言」の実施状況について報告させました。

「監理委」はこの中で、かの「緊急提言」が十分に実行されていないとし、① 国鉄の遊休地をもっと処分せよ、② 貨物合理化の対応が甘い、③ 乗務員以外の職種についても作業能率向上を図れ、と当局の姿勢を更に右から批判し合理化の

一層の強化促進を号令したのです。

「国鉄再建」の真の狙いは 国鉄労働運動解体

この間、政府・自民党は、「行革大綱」と「緊急措置十項目」を実施すれば「国鉄再建」が可能であるかのようにいいなし、「分割・民営化」をどう喝材料に「合理化」や「職場規律の確立」を口実とした既得権剥奪攻撃を強行してきました。とりわけ「新採停止」と「合理化」攻撃は、「八五年度・三五万人」計画を一年早く達成させたのです。

ところが、「監理委」や「監査委」はこれだけの「合理化」や「職場規律」を実施しながら、「赤字」は逆に増大していく現実のまえになすすべをなくしています。「国鉄危機」は日本資本主義の「体制的危機」そのものに根ざしているが故に、それは当然なことといえます。「国鉄再建」の自信も展望もない政府・自民党、「監理委」は、ジレンマにおちいり、凶暴化して、結局は「合理化」「職場規律の確立」等の攻撃を強行するしかありません。そして結局、大独占が国鉄の巨大な資産を食いものにする狙いだけが先行しているのです。それは、「国鉄再建」が口実であり、真の狙いが国鉄労働運動解体にあるからです。

われわれは、政府・自民党、国鉄当局の攻撃、とりわけ「帰休制度」導入によるクビ切り攻撃を粉碎するために組織体制を強化していかなければなりません。と同時に、動乗勤三月妥結を当局と仕組んで国鉄労働者を裏切ったのに引き続いて、今度は自民党と「共闘」して「効率アップで地交線を守ろう」なる反動キャンペーンを展開している動労「本部」が、必ずや「帰休制度」攻撃の先兵となつて登場してくることは目に見えています。一刻も早く労働者の敵「動労」本部「革マル」分子を追放一掃し、国鉄労働運動の戦闘的再生をかちとらねばなりません。そのためには5・20三里塚へすべての国鉄労働者が決起しようではありませんか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！